

学部 / 看護専門領域 / 看護の発展

科目コード:120506

## 緩和ケア論 Palliative Care

担当教員	臺 美佐子、瀧澤 理穂										
実務経験	緩和ケアに関する臨床経験を有する教員が担当している										
開講年次	4年次後期	単位数	1			授業形態	講義				
必修・選択	選択	時間数	15								
該当ディプロマポリシー	(1)	(2)	(3)	(4)	◎	(5)	○	(6)			
Keywords	緩和ケア、終末期看護、倫理的問題、代替療法、チーム医療、エコーアセスメント										
学習目的・目標	<p>【学習目的】 緩和ケアを必要とする患者と家族の苦痛や苦悩を全人的な視点から理解し、対象者とその家族のQOL向上を目指した緩和ケアアプローチについて考える。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん患者の体験している苦痛や苦悩の特徴とそのプロセスを全人的視点から理解する。</li> <li>2. 症状緩和のためのアセスメントと援助方法を理解する。</li> <li>3. 緩和ケア領域における倫理的問題について述べるができる。</li> <li>4. 緩和ケア領域におけるチーム医療の中での看護師の役割を考察する。</li> </ol>										
授業計画・内容											
回	内容							担当			
1	緩和ケアを必要とする患者の全人的側面の特徴							臺			
2	終末期患者への症状緩和のためのアセスメントと緩和ケア							臺			
3	緩和ケアを必要とする患者・家族の倫理的問題							臺			
4	緩和ケア領域におけるチーム医療とアドバンスト・ケア・プランニング							臺			
5	AYA世代患者の緩和ケア							臺			
6	終末期の代替療法と意思決定支援							臺			
7	終末期患者の緩和ケアの実際							瀧澤			
8	がん看護分野のアドバンストケア ～リンパ浮腫エコーアセスメント～							臺、瀧澤			
教科書											
参考図書等	『緩和ケア』恒藤暁・内布敦子編集、医学書院、2021										
評価指標	グループワークと発表態度(30%)、レポート(70%)										
関連科目	成人看護学概論、成人看護方法論Ⅱ、成人看護方法論Ⅲ、成人・老年看護学実習(慢性期)										
教員から学生へのメッセージ	緩和ケアは、がんと診断されてから終末期に至るまでの長い期間が対象です。様々な苦痛・苦悩を抱えた対象者やその家族の大きな力になる、緩和ケア領域の看護師の役割を、一緒に学んでいきましょう。										